

平和の栖

ゆがり まさずみ

弓狩匡純

すみか

広島から続く道の先に

この道に終わりはないが、「あの時」からすべては始まった――。
広島は、誰によって、どのようにして戦後復興を成し遂げてきたのか。
文献と証言、現場取材を織り交ぜながら、知られざる歴史のドラマを掘り起こす。



8月6日、9日を私は忘れません。
核兵器のない世界を作ることは
日本人の大切なつとめ。

この本が皆さまのお心に届くことを切望します。

吉永小百合さん推薦!!

発行/集英社クリエイティブ 発売/集英社

好評 発売中

本体2,500円+税

ISBN978-4-420-31084-0

復興のために闘った勇者たち。
その姿を臨場感豊かに描いた

感動のノンフィクション!

【内容紹介】

第1章 十字架を背負った少年

「広島に、悪魔が舞い降りた」でこの作品は始まる。
「神は忽然と姿をくらまし、人類がまた一步、墮天使へと近づいた。十四万余りもの貴い生命が、その年のうちに失われる」ような惨状の中、市職員は血と汗を流しながら罹災者の救護、食糧支援に奔走する。

第2章 平和という武器

広島をどのような街にするのか。「在りし日の“広島”を甦らせる“再生”を目指すのか、それとも新たな“広島”を作り上げる“創造”を選択すべきか」の模索の中、「平和都市」という方向性に舵を切る。

第3章 百メートルの助走

「戦後間もなく、この一画に初めて闇市が立った。荒神市場と誰からともなく呼ぶようになった」広島街には、やがて百メートル道路、平和記念公園が計画され、1946年平和復興祭が開催される。

第4章 焦土の篝火（かがりび）

「密集したバラックに囲まれ、川向こうには原爆ドーム、借景には遠く二葉山を望むといった何とも殺伐とした」広場で、1947年、第1回平和祭が行われた。GHQの言論統制の中「平和宣言」が世界に向けて発せられ、現在の平和記念式典へと受け継がれていく。

第5章 遙かなる道標（みちしるべ）

「『国益』ならぬ『市益』を勝ち取るための闘いの第二幕」は、1949年の平和記念都市建設法に結実する。その成立までにはマッカーサーとの交渉を含め「様々な素性や経歴、才能、そして想いを抱いた有名無名の侍たち」による、波瀾万丈とも言える執念のドラマがあった。

第6章 片翼の不死鳥（フェニックス）

2016年5月27日、オバマ米大統領が広島を訪れる。「原爆投下命令書に署名した米軍の最高司令官が、七一年という歳月を経てようやく被爆地にやってきた」一日と前後の喧騒を追い、「戦後復興の継承」という国際平和文化都市・広島の新たな責務と未来をも問いかける。



【弓狩匡純（ゆがりまさずみ）】

1959年兵庫県生まれ、作家・ジャーナリスト。
米テンプル大学卒業後、世界50ヶ国以上の国々を訪れ、『世界の名言大事典』（くもん出版）『世界の国歌・国旗』（KADOKAWA）など、国際情勢や経済、文化に至る幅広い分野で取材・執筆活動を続けている。
『平和のバトン 広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶』（くもん出版）は第66回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書〈中学校の部〉に選ばれ、日本子どもの本研究会の第4回作品賞を受賞した。

番 線 印		平和の栖 広島から続く道の先に 弓狩匡純・著 ・四六判ソフト 480頁 定価(本体2,500円+税) ・ISBN 978-4-420-31084-0 C0095 発行:集英社クリエイティブ(発売:集英社)	注 文 数	

書店様へ FAX **03-3230-2547** までこの注文書をお送りください
※部数は調整が入る場合がございます 集英社 書籍販売部
(本書の内容に関するお問合せ先 TELL 03-3239-3811 集英社クリエイティブ 斎藤)